インドゾウの採血の取り組み

～ハズバンダリートレーニングを用いて～

（公財）横浜市緑の協会　よこはま動物園
古田　洋

【背景と目的】よこはま動物園ではこれまでインドゾウ雄（ラスクマル，25 歳）の継続的な採血ができていない．過去に実施した事例では，採血の二度目からは拒否が大きくなり継続できなかった．今回，人も動物も安心，安全，安定した採血を実施することを目的として，ハズバンダリートレーニング（以下ハズバン）による採血の取り組みを実施した．

【実施方法】水族館で鯨類や鰭脚類に対して行われているハズバンの手法を参考に実施した．使用した道具はターゲットバー，ホイッスル，餌（リンゴ，ニンジン，サツマイモ）である．実施場所はインドゾウ舎屋内１室で，動物への心理的プレッシャーを排除する環境を整えるために，実施場所は常に動物の逃げ場を確保した．声による号令を無くし，ターゲットバーの位置や体の向きにより，望む場所にゾウを誘導した．人員は２名体制とし，１名がゾウの誘導係で，柵への体寄せ，柵の隙間からゾウ自ら耳を差し出すよう誘導した．２人目は踏み台に乗り，耳の保定，耳への針刺激，採血を行った．

[結果]2014 年 3 月 24 日から開始した．当初は職員が直接ゾウの耳を引っ張り出そうとしたが，拒否が大きくトレーニングが進まなかった．2015 年 2 月 15 日からはゾウ自らが柵から耳を出すように誘導した．さらに，耳への針刺激に対し特に敏感に反応した為，5 月 14 日からはカウント法を取り入れた．以後，順調に耳の脱感作が進んだ．左耳からの採血としては，2015 年 6 月 9 日に初実施できた。これは練習中に偶然針が血管に入り採血できたものであった。意図して採血できたのは 6 月 14 日および 7 月 4 日である。右耳からの採血の試みとして，7 月 11 日に血管への針刺しを行い，ゾウの許容を確認した．現在は，針刺激を与える日を週に１回，採血の試みを２週に１回の間隔で実施している．

【所感】ハズバンを行う上で大切な考え方を学ぶことができた．それは全過程において，動物に与える心理的圧力を極力排除することである.多くの場合，ハズバンダリー（受診動作）とは動物にとっては我慢や痛みを伴う行動が多く，それは回避，拒否，逃避，攻撃などの行動を伴いやすいものである．そういったハズバンダリーを継続して行うためには，動物がプレッシャーを感じることなく，自らが進んでトレーニングに臨むような環境を整えることが重要である．